

図書館が描かれている絵本の一考察

A Study of Picture books depicting to A Library

齋藤 めぐみ

Megumi SAITO

図書館が描かれている絵本を対象として内容を分析した。分析対象の絵本は外国の絵本が多く、中でもアメリカの絵本が多かった。図書館で行えること、移動図書館、図書館の歴史、図書館作り、図書館員の働き等が描かれていた。子どもたちに本を読んでもほしいという強い気持ちで児童室を作った図書館員の話など、果敢な図書館員の活躍も描かれていた。図書館での読み聞かせ場面も多く、図書館は単なる本の貸し借りの場所ではないと絵本から読み取れた。

キーワード：絵本 図書館 読み聞かせ 保育

I. 緒言

絵本は、子どもの育ちに貢献するものと位置づけられており（今田、2015）多くの保育現場において、「絵本の読み聞かせ」は毎日のように行われている。幼稚園教育要領の中で領域「言葉」の内容の取り扱いについての解説（文部科学省、2008）に“幼児は、絵本や物語などの中に登場する人物や生き物、生活や自然などを自分の体験と照らし合わせて再認識したり、自分の知らない世界を想像したりして、イメージを一層豊かに広げていく。そのために、絵本や物語などを読み聞かせるときには、そのような楽しさを十分に味わうことができるよう、題材や幼児の理解力などに配慮して選択し、幼児の多様な興味や関心に応じることが必要である”と示されている。ただし、保育は領域ごとに展開されるわけではない。そのため、絵本は総体として子どもの心身の発達を促し、幼児の日々を楽しく、豊かにすることに貢献する子どものた

めの芸術、児童文化財として重視され、幼児の保育・教育の現場でさまざまな機会において活用される（今田、2015）。

また、杉山（2021）は、絵本は以下のようなことが期待されていると示している。

- ① 楽しい雰囲気での応答的なかわりを生み出す
 - ② ものを介して身近な人と心を通い合わせる経験を作り出す“モノ”となることができる
 - ③ 子どもが自分に対する愛情を感じることができる
 - ④ 友達と同じ絵本を読むことで子ども同士の心を通わせることができる
 - ⑤ 新たな言葉との出会い、言葉の美しさ、楽しさに気付かせることができる
 - ⑥ 子どものイメージする力、想像する力を育む
 - ⑦ 身の回りのものに対する興味や関心を育む
- このように、幼児にとって絵本は大きな意味

をもつ。日常の保育の中で、絵本の読み聞かせをきっかけに幼児は何らかの遊びを始めることがあれば、幼児の遊んでいる様子から保育者が関連する絵本を選書して幼児に読み聞かせることもある。保育者は、幼児の豊かな育ちの援助者として、幼児の興味関心に合わせた良質の絵本を選書する力を養うことが望まれる。

絵本の研究は、物語絵本の内容や絵に焦点をあてた研究が多く、子どもたちの生活に即したテーマに焦点をあてた研究は少ない（例えば山室（2021）の「言葉の響き」の視点からみた研究、北野（2012）の科学絵本の利用と活用についての研究、齋藤（2021）の「誕生日をテーマとした絵本の研究、齋藤（2023）の「散歩」をテーマとした絵本の研究等）。幼児の生活や遊びに関連するテーマを決め、絵本を選出して内容の分析を行い、提示することは、保育者が幼児の生活や遊びの中の興味関心に沿った絵本を選書する際の一助となると考えられる。

そこで本研究では、幼児の生活と関連のある一つのテーマとして“図書館”が描かれている絵本を対象として内容を分析する。本研究で“図書館”としたのは、筆者が研究協力を要請されている埼玉県のI幼稚園において、図書館司書になりたいという女兒を中心とした“幼稚園に図書館を作ろうプロジェクト”が計画中であることが理由である。

以上より、本研究は、“図書館”が描かれている絵本の内容を分析し、図書館ごっこや幼児と一緒に作っていく幼稚園の図書館プロジェクトに関する活動の導入や展開の一助となる絵本を明らかにすることを目的とする。

Ⅱ. 方法

1. 調査対象の絵本：千葉敬愛短期大学メディアセンター蔵書検索、および絵本、児童書を紹介する日本で最大のウェブサイト「絵本ナビ」にて“図書館”をキーワードとして絵本を検索した。その結果“図書館が舞台の絵本”と

して51冊が抽出された。抽出された中から児童書や写真だけの本8冊を除外し43冊を調査対象とした。

2. 分析方法：Riffe et al. (2018)、有馬（2021）の内容分析法を参考として、各絵本のテキスト部分から共通の内容と言葉を抽出して分析する項目を決定し、有無を調査するコーディングシート（付録1）とコーディングマニュアルを作成した。研究は、研究者1名をもって行うことから、信頼性の確認は有馬（2021）を参考として、時間において2回同じ分析を行う安定性の確認を行った。有馬（2021）によると、内容分析は科学的手続きに基づいた一連の作業によって構成されるものであり、独断と偏見に基づく推測や独りよがりな解釈、こじつけにはならない。また、心理学、社会学、歴史学、政治学など様々な学問領域で用いられ、研究目的も多様で未知の可能性を秘めた実証研究にふさわしい手続きを踏んで行う研究手法である。

Ⅲ. 結果

対象とした絵本を表1に示した。調査対象の絵本は43冊であったが、2023年11月までに入手できなかった絵本が5冊あり、最終的には38冊を調査対象とした。母集団を十分に推論することはできない便宜的サンプルではあるが、Riffe (2018) が指摘する研究対象となる素材の入手が困難な場合であるため、この調査対象は正当化されたとみなす。

1. 絵本のプロフィール

(1) 出版社：対象とした絵本を表1に表した。岩崎書店、文研出版が3冊、新日本出版、徳間書店他2冊出版している出版社が8社であった。物語絵本を多く出版している福音館、フレーベル館からは図書館を舞台にした絵本が出版されていなかった。

(2) 出版年・出版国：出版年代と出版国を日本・日本以外に分け表2に示した。出版年は、

表 1 対象の絵本

ID	タイトル (50 音順)	出版国	作	絵	訳	出版社	発行年
1	あいうはえどこへ? ニューヨークのとしょかんにいる 2 通りのライオンのおはなし	アメリカ	ジョシュ・ファンク	スティヴィ・ルイス	金柿 秀幸	イマジンエーション・プラス	2019
2	うみの どうぶつ としょかんせん	日本	菊池俊	こばようこ		教育画劇	2012
3	おさるのジョージ としょかんのおしごと	アメリカ	M.レイ H.A. レイ		山北めぐみ	金の星社	2013
4	おさるのジョージ としょかんへいく	アメリカ	M.レイ H.A. レイ		福本友美子	岩波書店	2006
5	おぼけとしょかん	イギリス	デイヴィッド・メリング		山口文生	評論社	2005
6	おぼけのマールとみんなのとしょかん	日本	けーたろう	なかいいれい		中西出版	2015
7	きょうりゅうバスで としょかんへ	台湾	リウ・スーユエン	リン・シャオペイ	石田 絵	世界文化社	2022
8	コウモリとしょかんへいく	アメリカ	ブライアン・リーズ		西郷容子	徳間書店	2011
9	こないかな、ロバのとしょかん	コロンビア	モニカ・ブラウン	ジョン・パツラ	斉藤 規	新日本出版社	2012
10	しずかに! こぼはどうぶつ のとしょかんです	アメリカ	ドン・フリーマン		ドン・フリーマン	BL 出版	2008
11	ステラのえほんさがし	アメリカ	リサ・キャンベル・エルンスト	藤原宏之		童心社	2006
12	スミス先生とおぼけ図書館	アメリカ	マイケル・ガーランド		山本 敏子	新日本出版社	2011
13	大草原のとしょかんバス としょかんバス 2	日本	岸田純一	梅田俊作		岩崎書店	1996
14	ディモシーとサラ ちいさなとしょかん	日本				ポプラ社	2014
15	でんしゃとしょかん	日本	深山さくら	はせがわ かつ		文研出版	2021
17	としょかんへ びよん! びよん! びよん!	アメリカ	アーニー・シルヴェストロ	タチアナ・マイ＝ウィス	福本友美子	絵本發出版	2017
18	図書館に児童室ができた日 ～アン・キャロル・ムーアのものがたり～	アメリカ	ジャン・ビンポロー	デビー・アトウェル	張替恵子	徳間書店	2013
19	としょかんのよる	スイス	ローレンツ・パウリ	カトリン・シェーラー	若松宣子	ほるぶ出版	2013
20	としょかんねごジューイ	アメリカ	ブレットウィター	スティヴィ・グジェイムズ	三木卓 著: ヴァンキーマイロン	文化出版局	2012
21	としょかんは どこへ? — ニューヨークの としょかんにいる 2 通りのライオンのおはなし	アメリカ	ジョシュ・ファンク	スティヴィ・ルイス	金柿 秀幸	イマジンエーション・プラス	2021
22	図書館って、どんなところなの?	日本	赤木 かん子	すがわら けいこ		ポプラ社	2007
23	としょかんライオン	アメリカ	ミシェル・ヌードセン	ケビン・ホークス	福本友美子	岩崎書店	2007
24	図書館のふしぎな時間	日本	福本友美子	たしろ ちさと		玉川大学出版部	2019
25	としょかんへいこう	日本	斉藤 洋	田中六太		講談社	2014
26	としょかんへいく ビープちゃん	不明	クレジッド・コウエル		佐藤見果夢	評論社	1999
27	としょかんねずみ	アメリカ	ダニエル・カーク		わたなべ てつた	潮雲舎	2012
28	トマスと図書館のおねえさん	アメリカ	バット・モウラ	ラウル・コローン	藤原宏之	さ・え・ら書房	2010
29	バスラの図書館員	イラク	ジャネット・ウィンター		長田 弘	晶文社	2006
30	ピバリーとしょかんへいく	アメリカ	アレクサンダー・スタッドラー		まえざわ あきえ	文化出版局	2003
31	ふねのとしょかん	日本	いしい つとむ			文研出版	2018
32	ぼくのブック・ウーマン	アメリカ	ヘザー・ヘンソン	デイビッド・スモール	藤原 宏之	さ・え・ら書房	2010
33	ほんをひらいて	アメリカ	トニ・モリスン & スレイド・モリスン	シャドラー・ストリックランド	さくま ゆみこ	ほるぶ出版	2014
34	みきめぐりのとしょかんバス	日本	松永伊知子	梅田 俊作		岩崎書店	1996
35	もりのとしょかん	日本	ふくざわゆみこ			学研プラス	2017
36	山のとしょかん	日本	肥田 美代子	小泉 るみ子		文研出版	2010
37	よるのとしょかん	アメリカ	カズノ・コハラ		石津 ちひろ	光村教育図書	2013
38	ろばのとしょかん コロンビアでほんとうにあったおはなし	コロンビア	ジャネット・ウィンター		福本 友美子	集英社	2011

1996 年から 2022 年であり、1900 年代は 10.5 %、2010 年代が 63.2 %と比較的近年の出版が多かった。出版国は、海外が 65.8 %、日本が 34.2 %で海外の方が多かった。海外の中でもほとんどがアメリカで、海外のうち 76 %がアメリカであった。

2. 絵本で描かれていること

主人公の特性、描かれている内容について表 3 に示した。

(1) 主人公の特性

主人公では動物と動物たちを合わせると約 37 %。人間の子どもたちは約 34 %で若干動物が主人公になっている絵本が多かった。また、図書館員が主人公になっているものは 20 %弱となっている。利用者と図書館員との比較では、利用者が主人公になっている絵本の方が多かった。

(2) 主となる内容

描かれている内容から主となる内容について話す。

①実際に図書館で行われていること

図書館内で行われていることが描かれていた絵本は、76 %あり、その中では、貸出しと絵本の読み聞かせが描かれているものが多かった。

貸出し：本の貸出しの場面がある絵本は「コウモリとしゃかんにいく」「大草原」「としゃかんへぴょんぴょん」「としゃかんのよる」「ビバリーとしゃかんにいく」「みさきめぐりのとしゃかん」であった。「としゃかんってどんなところなの？」には貸出しの説明は描かれているが実際に貸出しは行われていない。どの絵本でも本の貸出しは貸出しカードを使って行われていた。貸出しカードについては、貸出しカード、図書カード、利用券、会員証と絵本によってその表記が異なっていた。「ビバリーとしゃかんにいく」では、主人公のビバリー（女の子）が貸出しカードを作ることを喜んでいる様子が描かれており、子どもにとって貸出しカードを作るとは大人への第一歩として嬉しいことだと推測できる。

リファレンス（検索）：「図書館って、どんなところなの？」「図書館のふしぎな時間」に図書館サービスとして説明的に紹介されていた。登場人物が実際に使うという場面ではなかった。

分類：「もりのとしゃかん」と「ひとまねこざるとしゃかんのおしごと」図書館ってどんなところなの？」に、図書館の本は分類して所蔵されているということが描かれていた。「もりのとしゃかん」は、簡単に本を探せるようにほんの地図と書く、という表現で分類のグラフが示されていた。内容は異なるが、日本十進法に準じた内容であった。一方、「ひとまねこざる」では、色々な方法で並べてみるがうまくいかず、最終的に司書に、タイトルのあいうえお順、作者のあいうえお順と教えられる。あいうえお順という並べ方は出版国アメリカでは ABC 順だと思われるが、日本の並べ方とは異なっている。今後原語で書かれた絵本を調べてみるのが望まれる。

読み聞かせ：読み聞かせ場面がある絵本は、「おさるのジョージとしゃかんのおしごと」「おばけとしゃかん」「おばけのマールとみんなのとしゃかん」「きょうりゅうバスでとしゃかんへ」「大草原のとしゃかんバス としゃかんバス」、「としゃかんへぴょん！ぴょん！ぴょん！」「図書館に児童室ができた日～アン・キャロル・ムーアのものがたり～」「としゃかんのよる」「としゃかんねこデューイ」としゃかんライオン」「みさきめぐりのとしゃかんバス」「もりのとしゃかん」「ふねのとしゃかん」「山のとしゃかん」「よるのとしゃかん」「ろばのとしゃかん コロンビアでほんとうにあったおはなし」であった。外国の絵本の翻訳では、絵は読み聞かせ場面になっていても“お話の時間”と訳されているものが多かった。これについても、どのような単語が使われているか原語を調べるのが望まれる。いずれにしても、絵本を大人が子どもに読むという活動は一般的に認知されていると考えられる。

紙芝居：紙芝居の上演が描かれている絵本は

表 2 対象絵本の出版年・出版国

絵本の基本事項	数 (冊)	%
分析対象となる絵本	38	
出版年		
① 1900 年代	4	10.5
② 2000 年代	8	21.1
③ 2010 年代	24	63.2
④ 2023 年代	2	5.3
出版国		
① 日本	13	34.2
② 日本以外	25	65.8

「ふねのとしょかん」だけであった。紙芝居は日本で誕生したものであることもあり、外国の絵本には描かれていなかった。

コンサート、作家の招聘、原画の展示：「図書館に児童室ができた日～アン・キャロル・ムーアのものがたり～」の中で児童室をはじめて作ったアンが行ったこととお話の会はもちろんのこと、コンサートを開いたり作家を招いたり、人形劇を行ったり、原画を飾ったりと、図書館では子どもたちに楽しい時間を過ごしてほしいというアンの願いがわかる。

② 図書館作り

島に住むどうぶつたちが図書館に行けないのでサルが船の図書館を作る「ふねのとしょかん」払い下げの電車を街の人たちが図書館にする「でんしゃとしょかん」、自分の命が残り少ないことを察して今まで集めた蔵書を図書館として森の住民に提供することから始まり、子どもたちが自分たちの持っている本をそれぞれ供出して、それぞれの小さな図書館を森中にする「ティモシーとサラ ちいさなとしょかん」、孤独なふくろうの家に本を読みに来た動物たちに家を図書館として解放するようになり皆が集まる場所となる「もりのとしょかん」。これらの絵本では、図書館が作られたことにより、人々（動物たち）が集まり交流が生まれる様子が描かれていた。人々が集まって交流するという図書館のあり方が描かれている。

表 3 対象絵本で描かれていること

絵本で描かれていること	数 (冊)	%
主人公の特性		
分析対象となる絵本	38	
①男の子	1	2.6
②女の子	7	18.4
③子どもたち	5	13.2
④動物	10	26.3
⑤動物たち	4	10.5
⑥図書館員	7	18.4
その他		
⑦おばけ	1	2.6
⑧恐竜	1	2.6
⑨おばあさん	1	2.6
⑩不明	1	2.6
描かれている内容 (複数回答)		
分析対象となる絵本	38	
①図書館で行われていること	29	76.3
②移動図書館	7	18.4
③図書館の歴史	7	18.4
④図書館作り	5	13.2
⑤夜の図書館	7	18.4
⑥物語の主人公と出会う	5	13.2
⑦インテリア	25	65.8
⑧司書の様子	11	28.9
⑨図書館の決まり		
⑩本の魅力	8	21.1
図書館の部屋の種類 (複数回答)		
分析対象となる絵本	38	
①閲覧室	25	65.8
②子ども専用の部屋	5	13.2
③読み聞かせの部屋	1	2.6
④その他	2	5.3
⑤なし	3	7.9
⑥不明	0	0.0
図書館で行われていること：活動 (複数回答)		
分析対象となる絵本	21	
①読み聞かせ	16	76.2
②絵本を読む	6	28.6
③お話	5	23.8
④紙芝居	1	4.8
⑤コンサート	1	4.8
⑥作家のトーク	1	4.8
図書館で行われていること：機能 (複数回答)		
分析対象となる絵本	12	
①貸出し	7	58.3
②利用者カード	6	50.0
③分類	3	25.0
④検索	2	16.7
⑤おすすめ本の掲示	1	8.3

③移動図書館

移動図書館が描かれている絵本には、図書館のある場所から遠い人たちのために乗り物に本を乗せて貸出しのために巡回するストーリー、はじめから図書館自体が船や電車というストーリーがあった。遠い人たちのために乗り物に本を乗せて貸出しのために巡回する絵本には、実在する、または実在したことを絵本にして紹介しているものが多かった。「ろばのとしょかん」、「こないかな、ろばのとしょかん」はコロンビアでろばに本を載せて巡回する図書館員、「ぼくのブック・ウーマン」はアメリカで馬に本を乗せて山奥まで巡回する女性図書館員の姿が描かれている。なお「ろばのとしょかん」は、図書館員ルイスの視点から、「こないかな、ろばのとしょかん」は、同じ話を待っているアナ（女の子）の視点から描かれている。また、「みさきめぐりのとしょかんバス」と「大草原の図書館バス」は本を乗せて廻る北海道の巡回図書館バスの実話に基づいている。途中でお年寄りの話を聞いたり、牛に読み聞かせをしたりする。「ふねのとしょかん」、「うみの どうぶつ としょかんせん」は島に住む動物たちのための船の図書館の話で、「ふねのとしょかん」は保育園のような図書館でネズミやカエルの子どもたちが1日を過ごす。また、「うみの どうぶつ としょかんせん」は、図書館に行けない動物たちのためにサルが船の図書館を作り紙芝居を観るという話である。既存の図書館に行くことが困難な場合の移動図書館が様々な乗り物で紹介されていることがわかった。

④図書館の歴史

子どもたちが図書館に入れなかった時代、図書館にはじめて児童室を作ったアン・キャロル・ムーアの働きを紹介している絵本「図書館に児童室ができた日～アン・キャロル・ムーアのものごと～」では、“しずかに”という看板をはずし児童室ではコンサートを開いたり人形劇をしたりと子どもたちが図書館で楽しく過ごせる

ことを願って奮闘した実話である。また、移動図書館でも述べたが、「ぼくのブック・ウーマン」は、現在の移動図書館の先駆けとして馬で山奥まで絵本を届けていた女性図書館員の話である。いずれも子どもたちに本を読ませない、という時代を経て、子どもたちに本を読ませたいという図書館員の強い気持ちが表されている。

⑤夜の図書館

夜の図書館に入り込むストーリーの登場人物は主に動物たちである。「あいほうはどこへ?」「としょかんはどこへ?」「としょかんへぴょん!」「としょかんへぴょん!」、「コウモリとしょかんへ」「おばけのマールとみんなのとしょかん」と図書館に入りたいが、できない動物やおばけが夜の図書館に忍びこむ。「よるのとしょかん」は、夜だけ開いている図書館に動物たちがやってくる。「としょかんのよる」は、キツネがネズミを追いかけてたまたまはいった場所が図書館だったが、本の面白さにキツネが目覚め、やがてはネズミとも仲良くなるストーリーである。動物たちにとっても図書館は憧れの場所であることを表している。

⑥物語の登場人物に出会う

「おばけのマールとみんなのとしょかん」、「スミス先生とおばけ図書館」、「としょかんはどこへ?—ニューヨークのとしょかんにいる2つのライオンのおはなし—」、「図書館のふしぎな時間」は、読んでいる絵本から物語りの登場人物が出てくる展開であり、「おばけとしょかん」、「コウモリとしょかんへいく」は、逆に主人公たちが本の中に入っていくという展開であった。

(3) 絵からわかること

①図書館に存在する部屋とインテリア

閲覧室であることが明確にわかる絵本と書架の前に椅子だけが置いてあるものとが存在した。また、絵本により閲覧室のテーブルが丸であるものと四角であるものがあつた。子どもの本の閲覧室は丸テーブルであるものが多かった。絵

本の読み聞かせの場面では、椅子ではなく直接床に座って見ている姿が描かれていた。「としょかんライオン」の場面では、丸く階段状になっているソファに思い思いに座る子どもたち、床にクッションなどが置いてありくつろげるようになっていた。

②図書館員・司書

外国の絵本には、戦火から本を守った図書館員の話「バスラの図書館員」やどんなに山奥でも女性1人で馬に乗り本を届ける図書館員「ぼくのブック・ウーマン」などたくましい図書館員の姿が描かれているものがあった。また、「図書館に児童室ができた日」は本当に子どものことを考えて行動するたくましさと賢さを兼ね備えた図書館の姿が描かれている。どの絵本でも怖かったり意地悪な図書館員は登場せず、読み聞かせをしたり、笑顔で貸出しをしたりする姿が描かれていた。図書館員は男性より女性で描かれている絵本が多かった。外国の図書館員・司書は私服で比較のお洒落な姿で描かれているが日本の図書館員・司書はエプロンをつける姿で描かれていた。

③図書館の決まり

“しずかにする”、“走らない”、というルールが描かれている絵本が多かった。「としょかんライオン」は、静かにするという決まりを破って図書館員の危機を救出することになり、ルールはただ守るべきものなのか？と問題提起がなされていた。また、児童室に掲げられていた“しずかに”という掲示を取り外したことが絵で描かれているのが「図書館に児童室ができた日」であった。いずれもただ静かにすればよいのかと考えさせられる。「図書館に児童室ができた日」では、子どもたちに貸出しをしたいという理由で、家でも図書館でも本を大切に取り扱い、図書館のきまりを守るという約束を読み上げることも描かれていた。「ビバリーとしょかんへいく」では、夢中になって本を読んでいる内に返却日を忘れてしまったビバリーが勇気をもって

本を返却しに行く様子が描かれていた。

Ⅳ. まとめと考察

本研究は、“図書館”が描かれている絵本の内容を分析し、幼児と一緒に作る幼稚園の図書館の活動の導入や展開の一助となる絵本を明らかにすることが目的であった。

図書館に関連する絵本は、43冊が抽出されたが、入手が困難である絵本が5冊あり、本研究では38冊の分析にとどまった。齋藤（2023）が行った散歩をテーマとした絵本の内容分析の対象となる絵本は176冊だったことと比較して図書館が描かれている絵本は少ない。乳幼児にとって図書館は、散歩ほど身近ではないのかもしれない。

図書館を舞台にした絵本の多くは、図書館で行えること、移動図書館、図書館の歴史、図書館員・司書の仕事を知ることのできる内容であった。その他、図書館を作ること、本を運ぶ図書館員、本を守る図書館員なども描かれていた。図書館を作る、また、図書館で読んでいる物語の中に入り込む話し、夜の図書館に忍び込む話などが描かれていた。図書館を中心に多くの人や動物が集まる場所になることも描かれていた。外国の絵本が日本の絵本より多く、外国の絵本には果敢、有能な図書館が描かれていた。日本の図書館員（司書）はエプロンを着用しているが外国の図書館員（司書）は私服で、お洒落な姿で描かれている。図書館員（司書）のあり方が日本と外国では異なるのではないかと推測される。図書館で行う活動では、絵本の読み聞かせをしている場面が多く、子どもたちが読み聞かせを楽しんでいる様子が描かれていた。いずれにしても絵本の中で描かれている図書館は居心地の良い場所、楽しい場所、人が集まる場所であり、ただ単に本の貸出しをする場所だけでないということが絵本で描かれていることがわかった。

次に図書館ごっこから図書館作り計画プロ

ジェクトに影響を与えそうな絵本について考察する。

図書館を作ることが描かれている絵本の中で、森の住民が参加する小さな図書館や蔵書を図書館にするストーリーである「ティモシーとサラちいさなとしょかん」は、図書館作りを行いたいという子どものイメージを膨らませやすい絵本であると考えられる。大きな図書館を作る、一人一人が自分で工夫した小さな図書館を作る、どちらでも子どもたちが興味をもち、図書館ごっこの遊びに刺激を与える可能性が大きい。

また、「としょかんへびょん！ぴょん！」に描かれる丸いテーブルと白い書架、「図書館に児童室ができた日」の花や絵が飾られた児童室「としょかんライオン」のクッションや丸いソファのある絵本の部屋などは、実際の図書館づくりの内装を考える際に子どもたちに見せたい絵である。

さらに、図書館で行うことについては「図書館ってどんなところなの？」で基本的なサービスを「おさるのジョージ としょかんのおしごと」と「もりのとしょかん」で本の並べ方を「図書館に児童室ができた日」で描かれている様々な活動を知ることができる。

「アメリカで児童室ができた日」でも描かれていたが、子どもは読書をする必要がなく、むしろ悪影響を与えると考えられ、図書館は大人の閲覧の場所という認識が強かった時代があった（有働，2018）。このことを考えると現在の子どもを取り巻く本の環境は向上しているといえる。

幼稚園教育要領解説（文部科学省，2018）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府，2018）、保育所保育指針解説（厚生労働省，2018）では3歳以上の子どもの保育室に絵本コーナーを設置するよう求めているが、幼稚園設置基準第11条第6項で図書室の設置は努力義務とされている。

保育・幼児教育施設の絵本蔵書数と年間購入予算を調査した高橋ら（2021）は、子どもの成育環境として重要な役割を果たす保育・幼児教

育施設における絵本・本環境の保障と拡充に向けた取り組み、それに向けて地域システム論的視点（保護者の参画や近隣図書館との連携等）を持つことの重要性を示唆している。

保護者が感じる大学の附属幼稚園の子ども図書室の魅力について調査した塚越ら（2020）は、保護者は、運営に携わる学生ボランティアとの交流や室内に常備されている折り紙等を使った工作活動に魅力を感じていたと示している。このことから、子ども同士・大人同士のコミュニケーションスペースとして図書館が活用されていることを示唆している。

幼稚園図書館を作った際には、幼稚園に通う子どもたちだけのものとせず、保護者や地域の人たちに開放し、利用者の交流の場としての図書館のあり方も検討する必要がある。「図書館に児童室ができた日」を参考とした様々な活動を行い、図書館を中心とした地域の人々の交流が生まれることが期待される。

今後、本研究の結果を基に幼稚園で子どもたちと絵本を楽しみ、子どもたちと一緒に図書館を作るプロジェクトを実施しその成果を公表することが望まれる。

文献

- 有馬明恵（2021）「内容分析の方法」株式会社ナカニシヤ出版 京都市
- 今田由香 松本猛編集 「絵本と社会」（2015）朝倉書店 107-108
- 有働玲子、後藤利恵子（2018）図書館・文庫の読み聞かせについての一考察—1950～1970年代のかつら文庫と児童サービスを用いて—生涯学習研究：聖徳大学生涯学習研究所紀要／聖徳大学生涯学習研究所 編（16）5-14
- 高橋翠・野澤祥子・菅井洋子・佐久間路子・仲本美央・秋田喜代美（2021）保育・幼児教育施設における絵本・本の蔵書数と年間予算—施設間の相違と地域環境との関わりに着目して— 国際幼児教育研究 28. 119-136

塚越奈美、秋山麻実、志村結美、川島亜紀子、
小島千か、渡邊文代、佐藤和裕 (2020)「利用
者が感じる山梨大学附属図書館子ども図書室
の魅力：附属幼稚園児の保護者を対象とした
質問紙調査からの考察」教育実践学研究：山
梨大学教育学部附属教育実践総合センター研
究紀要 25 1-9

齋藤めぐみ (2021)「誕生日」に関連する絵本に
おけるメッセージに着目した内容分析 日本の
絵本と海外の翻訳絵本の比較による一考察
千葉敬愛短期大学研究紀要 43 号 47-64

齋藤めぐみ (2023) 散歩に関する絵本の一考察
千葉敬愛短期大学紀要 (45) 29-37

杉山喜美恵 (2022) 幼稚園教育要領・保育所保
育指針における「絵本」の位置づけ

東海学院大学短期大学部紀要 48 55-66

浜崎由紀、山田千都留、内山三枝子 (2020)「乳
幼児向け絵本に関する考察—こどものとも
0.1.2.を中心に—」大阪商業大学共同参画研
究紀要 1 1-20

山室和也 (2021)「言葉の響き」の視点からみた
絵本の分析的研究

初等教育論集 22 79-95

幼稚園教育要領解説 (文部科学省) [https://www.
mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/
youkaisetsu.pdf](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/youkaisetsu.pdf) (2023 年 12 月 4 日閲覧)

付録1 コーディングシート

コーディング・シート		月	日
題名、作者、画家、訳者			
1. ID	() - ()		
2. 出版年	① 1900 年代 ④ 2023 年代	② 2000 年代	③ 2010 年代
3. 出版国	① 日本 ④ 外国で不明	② アメリカ	③ その他
4. 主人公の特性：性別	① 男性 ④ 不明	② 女性	③ 両方
5. 主人公の特性：種類	① 人 ③ 動物たち ⑤ その他	② 動物 (種類) ⑥ 不明	(種類) ④ 両方
6. 主人公の特性：年代	① 子ども ④ 両方	② 大人 1 ⑤ その他	③ 大人 2 ⑥ 不明
7. 主人公の特性：属性	① 子ども ④ 不明	② 図書館員	③ その他
8. 主人公の特性：立ち場	① 利用者 ④ その他	② 図書館員	③ 両方
9. 描かれている内容	① 図書館で行われていること ④ 図書館の歴史 ⑦ インテリア ⑩ 本の魅力	② 図書館作り ⑤ 登場人物と会う ⑧ 司書の様子	③ 移動図書館 ⑥ 夜の図書館 ⑨ 図書館の決まり
10. 図書館の部屋	① 閲覧室 ④ その他	② 読み聞かせの部屋 ⑤ なし	③ 子ども専用の部屋 ⑥ 不明
11. 図書館で行われていること	① 貸出し ④ 利用者カード ⑦ 紙芝居 ⑩ 絵を飾る	② 検索 ⑤ 読み聞かせ ⑧ コンサート	③ 分類 ⑥ お話 ⑨ 作家招聘
12. 図書館の形態	① 固定	② 移動	③ 両方
13. 飲食	① あり	② なし	

付録2 対象とした絵本の概要

ID	タイトル (50 音順)	内容
1	あいぼうはどこへ？	ニューヨーク公共図書館前にいる像のライオンの一匹がいなくなる。もう一匹が相棒を探し図書館内を歩き回る。
2	うみの どうぶつ としょかんせん	図書館に行けない島の動物たちのためにサルが船を改装して船の図書館を作り、大きな大きな紙芝居もみられるようにする。
3	おさるのジョージ としょかんのおしごと	図書館の絵本の分類を任されたジョージは、色別、大きさ別など色々試すが、テーマ別、作者のあいうえお順に並べるとよいことを教えられる。
4	おさるのジョージ としょかんへいく	ジョージは初めての図書館にワクワク。特にこどもたちと一緒におはなしの時間に絵本を読んでもらうのが大好き。
5	おばけとしょかん	おばけ図書館に連れて行かれたポーは、おばけたちに本を読んだり本を作ったりとおばけと楽しく過ごす話。
6	おばけのマールとみんなの としょかん	おばけのマールが夜の図書館にはいり、物語の主人公たちに出会う。朝になると読み聞かせに参加できるようになる。
7	きょうりゅうバスで としょかんへ	話をききたいのに中には入れないきょうりゅうの気持ちをお話のおばさんが共感し、きょうりゅうにとしょかんバスになってもらい街中を歩き本を届けるようになる。
8	コウモリとしょかんへいく	コウモリが図書館の窓から入り込み、お話を聞き出すとお話の主人公になり物語を楽しむようになる。
9	こないかな、ロバの としょかん	村に先生も本もないところにいるアナ（女の子）が、ある日やってきたロバの移動図書館を心待ちにする話。南米コロンビアのロバの移動図書館を待っている子どもたち側から描いている。
10	しずかに！ここはどうぶつのとしょかんです	図書館が大好きな女の子、カーリーナがどうぶつのために図書館を開放することを想像する話。
11	ステラのえほんさがし	多くの人を巻き込んで、なくしてしまった図書館で借りた本を探す話。
12	スミス先生とおばけ図書館	小学校の生徒たちが図書館に行き、話を読んでもらうとその中の登場人物たちが飛び出してくる。
13	大草原のとしょかんバス としょかんバス 2	北海道根室半島の海辺の街に行く図書館バスが草原を走った日のことが描かれている。
14	ティモシーとサラ ちいさな としょかん	トムが家を開放して図書館を作ったことをきっかけに、ティモシーとサラも森の住人に呼びかけてそれぞれが独自の小さな図書館を作ると図書館には人がたくさん集まる。
15	でんしゃとしょかん	古くなった電車を町中の人々が協力してきれいにして図書館にした話。図書館を中心に図書館祭のように人が集まる。くめがわ電車図書館の実話。
17	としょかんへ ぴょん！ ぴょん！ ぴょん！	ウサギは本が大好きで友だちと夜の図書館にもぐりこみ、本を借りて家で読んでいた。あるとき、司書の人に見つかるが、図書カードをもらい本を借りることができるになり、心ゆくまで本を読めるようになった。
18	図書館に児童室ができた日 ～アン・キャロル・ムーアのものがたり～	図書館に児童室をはじめて作ったアン・キャロル・ムーア。しずかにという掲示をはずし、児童室ではコンサートやお話会、人形劇など子どもたちが楽しく過ごせるようにした。
19	としょかんのよる	ネズミを追いかけてキツネは図書館へ。はじめて図書館に行き本の面白さを知り、ネズミとも仲良くなる。
20	としょかんねこデューイ	図書館に迷い込んだ猫が図書館に馴染んでいく様子が描かれている。

付録２－２ 対象とした絵本の概要

ID	タイトル (50 音順)	内容
21	としょかんは どこへ？	ニューヨーク公共図書館前にいる２頭の像のライオンが、なくなってしまった児童書を探しに夜中に図書館内を歩き回る。あいぼうはどこへ？のシリーズ。
22	図書館って、どんなところなの？	図書館の働き、司書のお仕事などを紹介している。貸出し、レファレンスなどの説明がある。
23	としょかんライオン	図書館にはいつてきたライオン。お話をさいたり眠ったり。静かにしないといけないという図書館のルールを破ったが人助けをしたライオンからルールとはなにか？を問いかける。ライオンは図書館にいられるようになる。
24	図書館のふしぎな時間	国際子ども図書館を妖精が案内するという話。
25	としょかんへ いこう	図書館の使い方を迷路や、間違い探し、探し絵クイズなど遊びながら学ぶ絵本。
26	としょかんへいく ピーブちゃん	羊飼いのピーぶちゃんが羊を探しに図書館へ。いろんなジャンルの本を見て、それをヒントに羊を探す。
27	としょかんねずみ	夜になると静かな図書館にねずみのサムひとりになり、毎晩、サムは思う存分本を読む。そして自分でも本を書き、それが大人気になる。
28	トマスと図書館のおねえさん	見知らぬ土地にやってきたトマスは、親切な図書館員のおねえさんとお会い、図書館に通うようになり本を読む喜びを知る。
29	バスラの図書館員	イラクであった話。バスラの女性図書館員。夜３万冊の本を皆の家に運ぶ。図書館の本には歴史が詰まっている。戦争から図書館を守った話。
30	ビバリーととしょかんへいく	ビバリーは図書館にはじめて行き本を借り、夢中になって本を読んでいるうち返却日を忘れてしまうが勇気をもって返しにいく。そして図書館で同じ恐竜が好きなオリバーと友達になる。
31	ふねのととしょかん	保育園のような船の図書館に毎日通い、お話を聞いたりお弁当を食べたりお昼寝したり楽しい１日を過ごすネズミやカエルの子どもたちの様子が描かれている。
32	ぼくのブック・ウーマン	80 年前のアメリカ。学校も図書館もない不便な所で生活をしている子どもたちのために、図書館の本を届ける「荷馬図書館員」の「ブック・ウーマン」が馬に乗って、暑い日も、寒い日も、どんなに遠い道のりでも、ひたすら子どもたちの手もとに本を届けた話。
33	ほんをひらいて	台風の日図書館にきたルイズは本を開いて本の世界を楽しみ、怖いことも嫌なことも忘れる。
34	みさきめぐりのととしょかんバス	北海道根室半島の海辺の街に行く図書館バスの１日。
35	もりのととしょかん	孤独だったふくろうの家に次々に動物たちがやってきて、ふくろうがたくさん持っている本を読むようになる。動物たちは、そこでおもしろい１日を過ごすようになり、ふくろうは家を「もりのととしょかん」とする。
36	山のととしょかん	一人暮らしのおばあさん。ある日絵本のはいていた箱があいていて絵本を読むようになると、毎晩男の子が絵本を見に来るようになる。実は男の子はたぬきだった。
37	よるのとととしょかん	夜だけ開いている図書館員カーリーナとふくろう。どうぶつたちがやってきてブレイルームで演奏したり、読み聞かせの部屋で本を読んだりする。
38	ろばのとととしょかん コロナンピアでほんとうにあったおはなし	コロンビアでろばに本をくくりつけて村をまわって移動図書館をしたルイスの本当にあった話。ルイスは本を届けるだけでなく、外で絵本の読み聞かせなども行う。「こないかな、ろばのとととしょかん」と同じろばのとととしょかんであるが、こちらは、主人公が本を運ぶルイスである。